



異文化理解から多文化共生へ

先入観・偏見・差別・除外から客観・正見・公平・包含へ

日本初のアジア出身議員 よぎ（プラニク・ヨゲンドラ）

Understanding various cultures for achieving diversity

Moving from a preoccupied, prejudiced, discriminatory & exclusive society to an objective, right, just & inclusive society.

2021年09月11日

COPYRIGHT NOTICE

Copyright © 2021 Yogendra Puranik "Yogi"

Mail: jnkjapan2020@gmail.com

All rights reserved. These materials are confidential and proprietary and no part of these materials should be reproduced, published in any form by any means, electronic or mechanical including photocopy or any information storage or retrieval system nor should the materials be disclosed to third parties without the express written authorization of the owner.



03

• よぎについて

06

• 多文化共生とは？

09

• そもそも外国人は必要？

16

• 多文化共生の進め方

23

• 多文化共生を進める具体的事例

30

• 外国人は一括りではない。そして、共生か共存か？



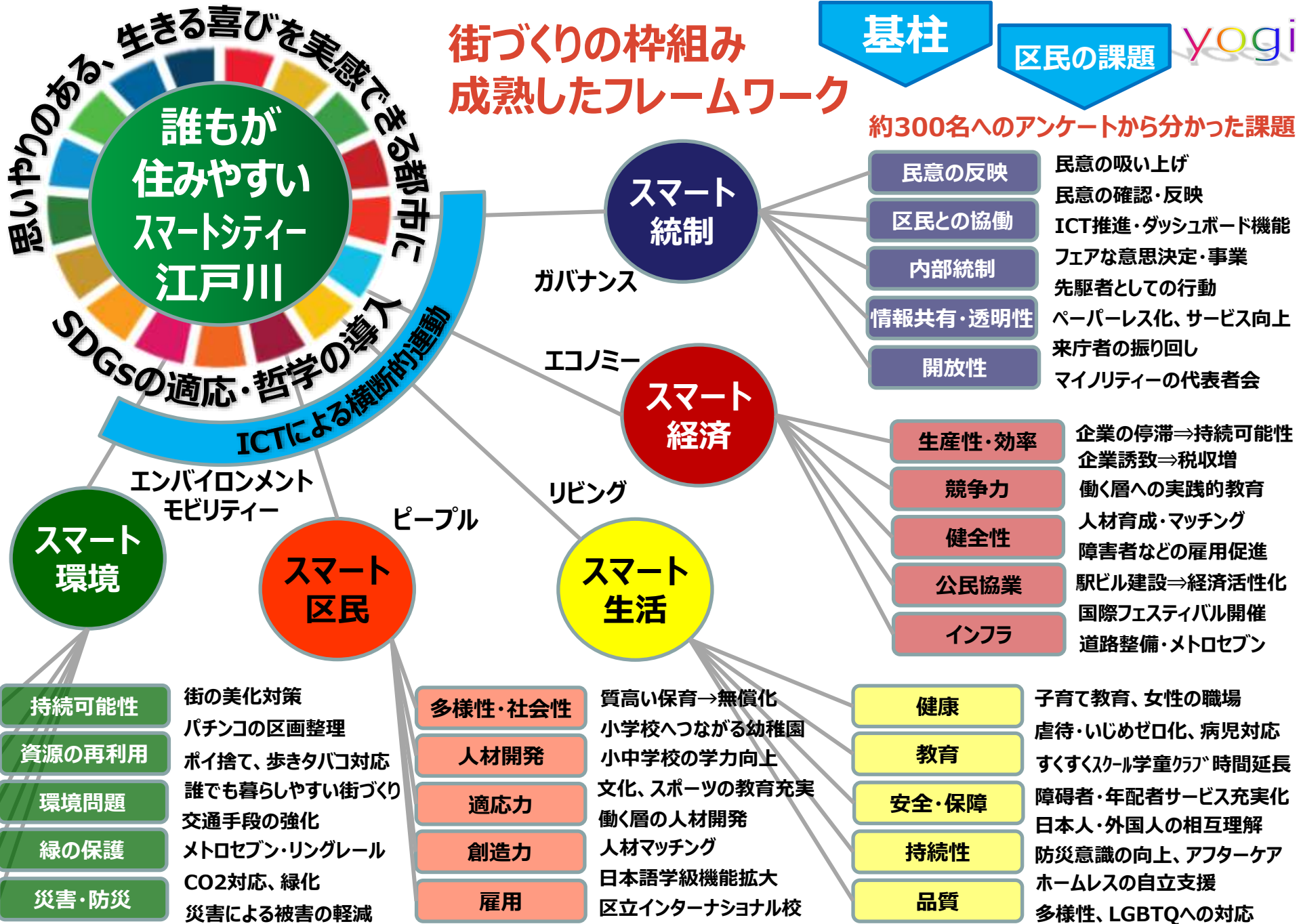
よぎについて

- 氏名：プラニク・ヨゲンドラ（通称：よぎ）
- 2019年4月の地方統一選挙で江戸川区議会議員に当選。
- 学歴
 - インド西部州立プネ大学経済学部国際経済学科修士課程卒業。
 - 日本国外務基金の招待生として二回に渡り日本に留学。
 - インド国立経営大学IIMカルカッタより国際経営プログラムを卒業。
 - 情報技術専門校より情報技術のディプロマ号を取得 など。
- 職歴
 - 20年以上の国際勤務経験。当選前まで日系銀行で管理職として勤務。
 - 日系大手銀行、一流IT企業、自動車エンジン機器メーカーでの23年以上の勤務経験。
 - 日本国外務省、複数の企業・自治体・大学・団体において客員講師として指導。
 - 人気印度家庭料理店レカ及び江戸川印度文化センターの設立・経営。
- 奉仕活動
 - 長年に渡り自治会、PTAなどに積極的に参加し、交流イベントなどを実施。
 - ボランティアとしてパソコン教室、言語教室、料理・文化・歴史などの教室を10年以上開催。
 - 全日本インド人協会・会長。インド人コミュニティの代表ボランティアとして活動中。
- 趣味 執筆、ロードバイク、大型バイク、教育など

なぜ私は議員になったのか？

- 1990年代の後半に国費留学生として二回来日。2001年より日本のIT企業・銀行で勤務。
- 東京の中野・町田、千葉県市川市を転々し、近所付き合いはさほどなく、寂しい思いをした。2003年から息子との二人暮らしも始まり、待機児童などを経験した。
- 2005年、通勤距離を縮め息子との時間を確保するため、江戸川区西葛西への引っ越しを検討。既に約200世帯だった印度人コミュニティはゴミ分別をしない、うるさい等と評判が悪い。ここに引っ越すのか、悩んだ。
- でも、西葛西駅から徒歩2分、広々としたUR都市再生機構の小島町二丁目団地、子どもの成長、遊び場、安全などを勘案して、最高の場所だと思い、ここに引っ越した。
- 町内会の行事などに自ら飛び込み、翌年には初の印度人役員が誕生した。以降、印度人に対する日本語教室、ゴミ分別や防災の講演等を開始。URの貼り紙等の英訳を掲示板に貼り始め、多文化夏祭りを実現。西葛西のディワリ・フェスタの企画なども。
- ボランティアとしての活動を約15年も続け、その想いを行政に直接届けたいとの気持ちで2019年の選挙に挑戦し、全国で印度・アジア出身初当選。日本人と外国人コミュニティの懸け橋、SDGs・スマートシティーの枠組みの導入による持続可能な経済、年齢・健康状態・国籍など関係なく住みやすい街づくり、教育の改革などをテーマにして活動中。





多文化共生とはなんぞや？

COPYRIGHT NOTICE

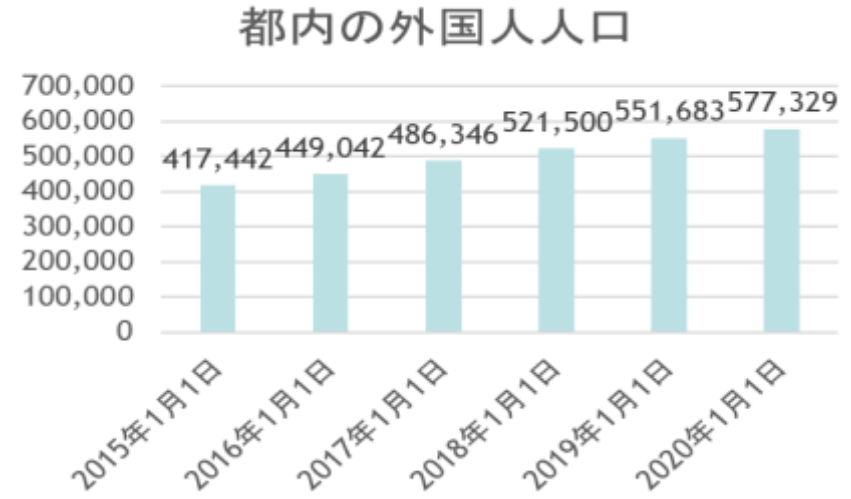
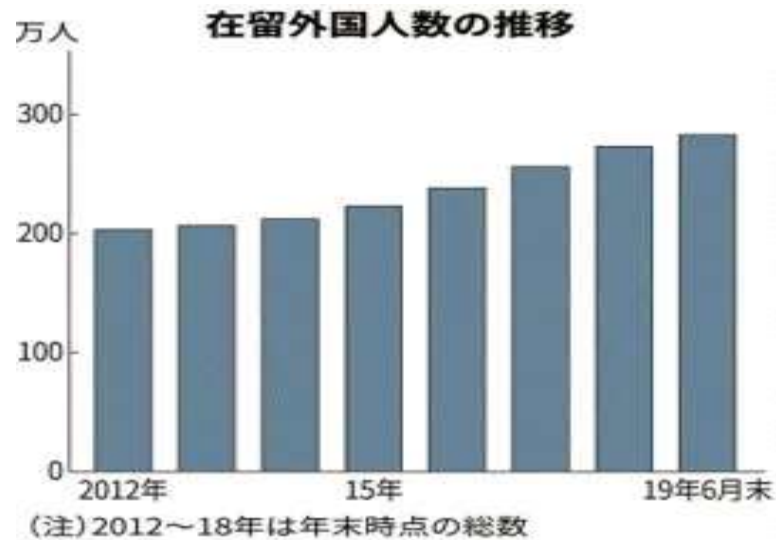
Copyright © 2021 Yogendra Puranik "Yogi"

Mail: jnkjapan2020@gmail.com

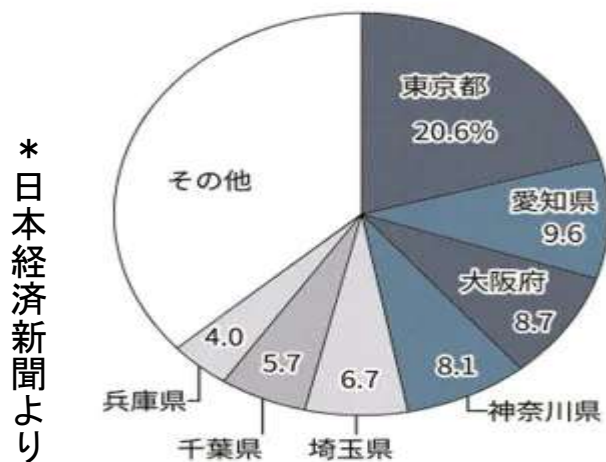
All rights reserved. These materials are confidential and proprietary and no part of these materials should be reproduced, published in any form by any means, electronic or mechanical including photocopy or any information storage or retrieval system nor should the materials be disclosed to third parties without the express written authorization of the owner.

日本国内の在留外国人の統計

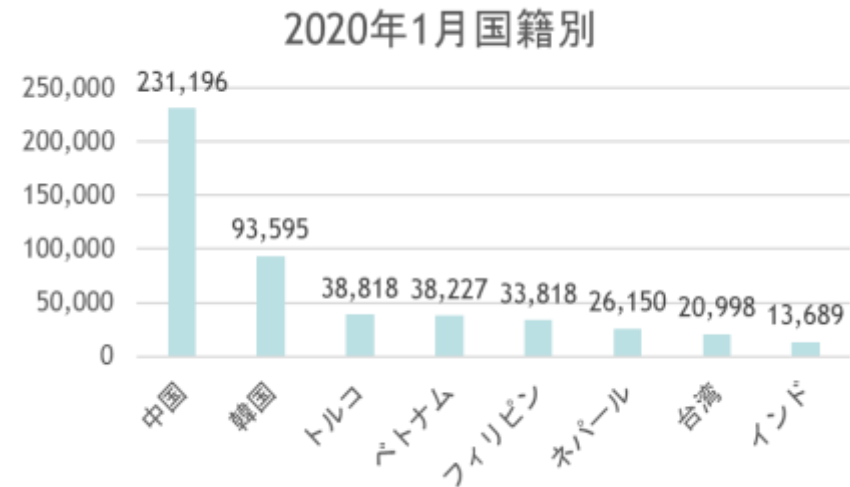
年々増えています。近年は急増しています。そして、課題も増えています。



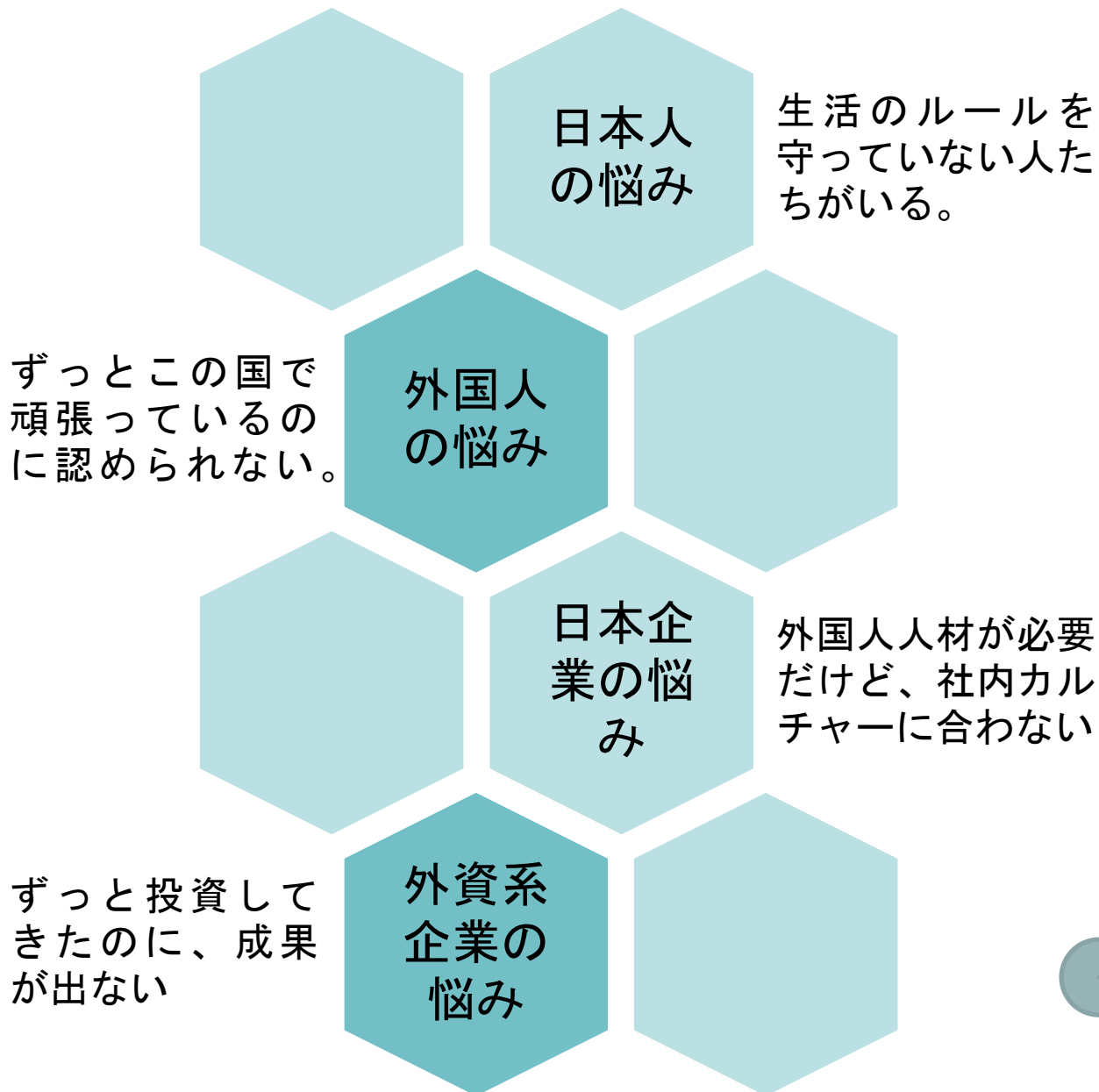
在留外国人は大都市圏に多い



* 日本経済新聞より



色々な問題が聞こえてくるが、一緒に楽しくしようと



多文化共生とは、

このギャップを、お互いの文化的背景などを理解し、認め合って、みんなでハッピーになろう、という話。

先ず理解すべきこととは、このテーマは主観的で、感情が関わるもので、パーフェクトアンサーはない。

そもそも外国人は必要だっけ？ 身近なところで考えて見る

COPYRIGHT NOTICE

Copyright © 2021 Yogendra Puranik "Yogi"

Mail: jnkjapan2020@gmail.com

All rights reserved. These materials are confidential and proprietary and no part of these materials should be reproduced, published in any form by any means, electronic or mechanical including photocopy or any information storage or retrieval system nor should the materials be disclosed to third parties without the express written authorization of the owner.

外国人って要る？ 要るわ！ 要らないわ！

色んな意見がある。例えば、

国の意見

- 人手が足りていない。
- 少子高齢化で社会保障制度が維持出来なくなる。

要らないわ！

- 仕事が奪われる。
- 社会の秩序が乱れる、犯罪が増える。

いいんじゃない！

- 日本の文化、言葉が好きな方々もいる。
- 日本の文化は更に広がる。

- 人手不足を補うために戦前戦後色々な形で外国人を受け入れたが、課題に向き合わない。
- 必要な制度を作らない、使い捨てる等問題が残る。

- 近くにたくさんの外国人がいて、日常的に様々な経験をしている方の意見。
- 歴史的背景などから特定の国籍の方々が嫌など。

- 特に、直ぐ近くに外国人がたくさん住んでいない方の意見。
- 外国人と結婚している、海外に行ったことある方など。

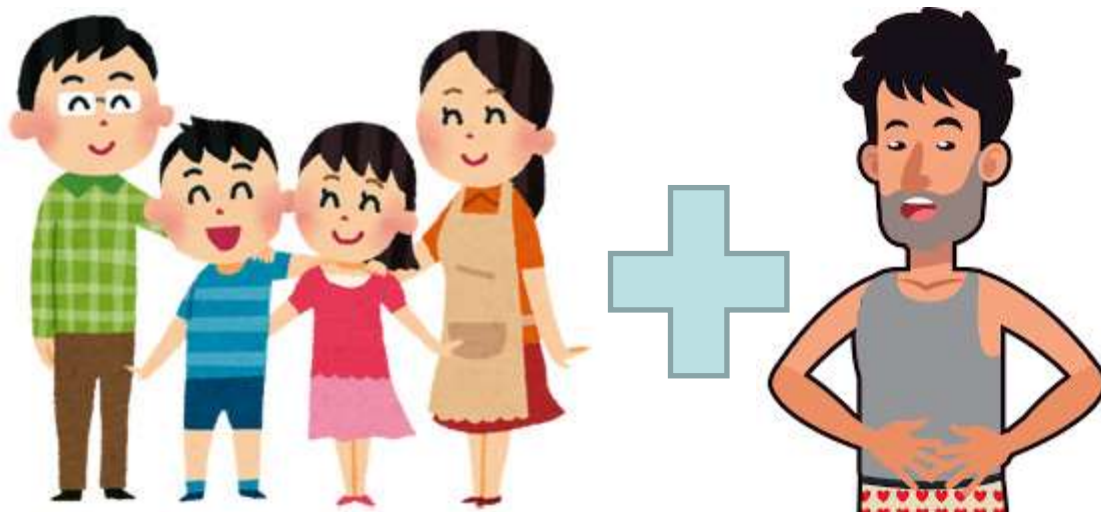
外国人は要るわ！単位を小さくして考えてみよう

両親と子ども二人の家庭があるでしょう。そこにいきなり外国人が入ってくる。



仕事または勉強はしっかりしている外国人で、家庭やコミュニティ内のマナーをしっかりと守る人なら、受け入れやすい。

更に、同じ言葉を話、同じご飯を食べ、一緒に同じことをしてくれるなら最高ですよ。



仕事または勉強をきちんとしない、または家庭やコミュニティ内のマナーを守らない人だと、受け入れにくい。

しかも、その外国人が自分たちの意思で入ってきていないなら、なおさら嫌ですよ。税金などを納めないなら更に問題。

では、外国人が必要か、考えてみよう

労働人口の減少に伴い人手不足が深刻だと言われている。2014年の厚生労働省の発表では有効求人倍率は1.10%で、人材不足を訴える企業は6割以上。労働人口の減少により国の税収が減少し、将来、社会保障制度が継続できなくなる懸念がある。

少子高齢化による 人手不足

- 国や企業が人材を育てなくなっている。
- 就職の不安を抱える日本人が多い。精神病、負けた気持ちになる。
- 育児休暇中の女性は職場復帰に懸念を持ち、復帰出来ない方も。

社会保障制度の 崩壊危機

- 非正規雇用が増え、特に若者の年金参加率は低い。
- 核家庭化で保育・介護・医療の負担が大きくなっている。
- 在留外国人のうち、年金・保険を規律正しく払い込まない方も多い。

- 私たちの思考や生活を変えれば、上記の課題に対してみんなで応えるのなら、騒がれているほど、外国人を受け入れる必要はない。
- 町に出て働きたい農家の子孫がいれば、町を出て農業をやりたい都市部の人もいると思う。但し、その人材マッチングが出来ていないのは、今の問題。

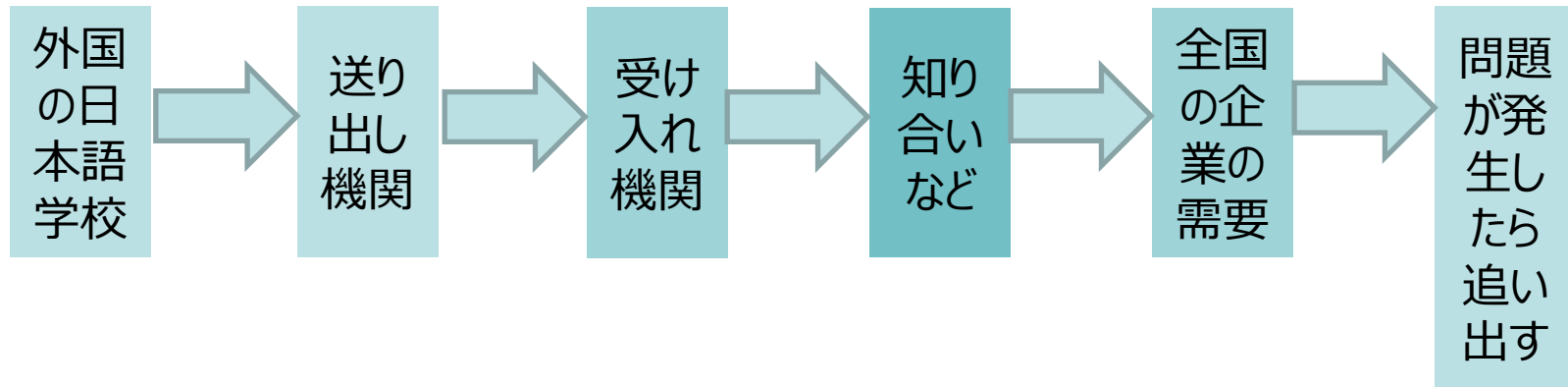
外国人は全く要らない訳ではない

- 分野によって人材が不足しているため、外国人は全く要らないという訳ではない。
- それは、世界貿易と同じで、仮に、日本が自給自足に舵を切っても、ガソリンその他の原材料については外国との貿易が必要。同様に日本が持っている独特なものは外国が必要とする。今の様々な問題は一部の国が過剰な貿易を圧したためである。
- よって、外国人も過剰に受け入れず、必要な程度でいいと思う。
- 実際に起きている問題に照らし合わせて
 - 人手不足については、必要不可欠な分野、場所に外国人がいれば良い。
 - スキル不足についても、必要なスキルを持った人材が最適な場所にいれば良い。
 - 国の財政難については、税金、保険料、年金を支払い、国の力になる人材であれば良い。
- でも、問題が生じているのはなぜかという、実際にどのぐらいの人手不足なのか、どのようなスキルの人たちが足りていないか、そもそも、日本のどこかにそのような人材がないのか、国内で人材育成が可能か、ということを全国的に考える仕組みが存在しないからだ。
- よって、技能実習制度が失敗し、騒がれているし、特定技能制度に切り替えても同じような騒ぎが発生すると思われる。成功につなげる実行性がなく、具体性が足りないから。
- 都内に1500件もの印度類似料理店はあるが、本当に必要なのか考えるべきである。

なぜ技能実習生制度など、受け入れが失敗するのか？

外国人の受け入れが失敗するのは、その流れ（プロセス）が管理されていないからである。すべては「成り行き」に任されている。

技能実習の場合



課題

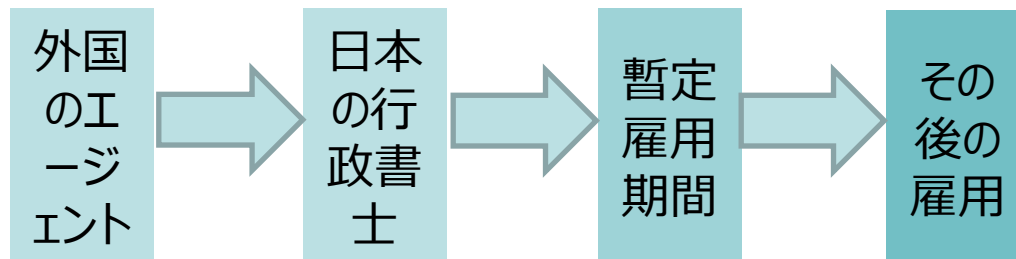
来日前の研修
はない/不十分

約150万の手
数料がとられる

雇用先が見つ
からない、危うい

年金、保険、アフ
ターケアはない

技能その他のビザ

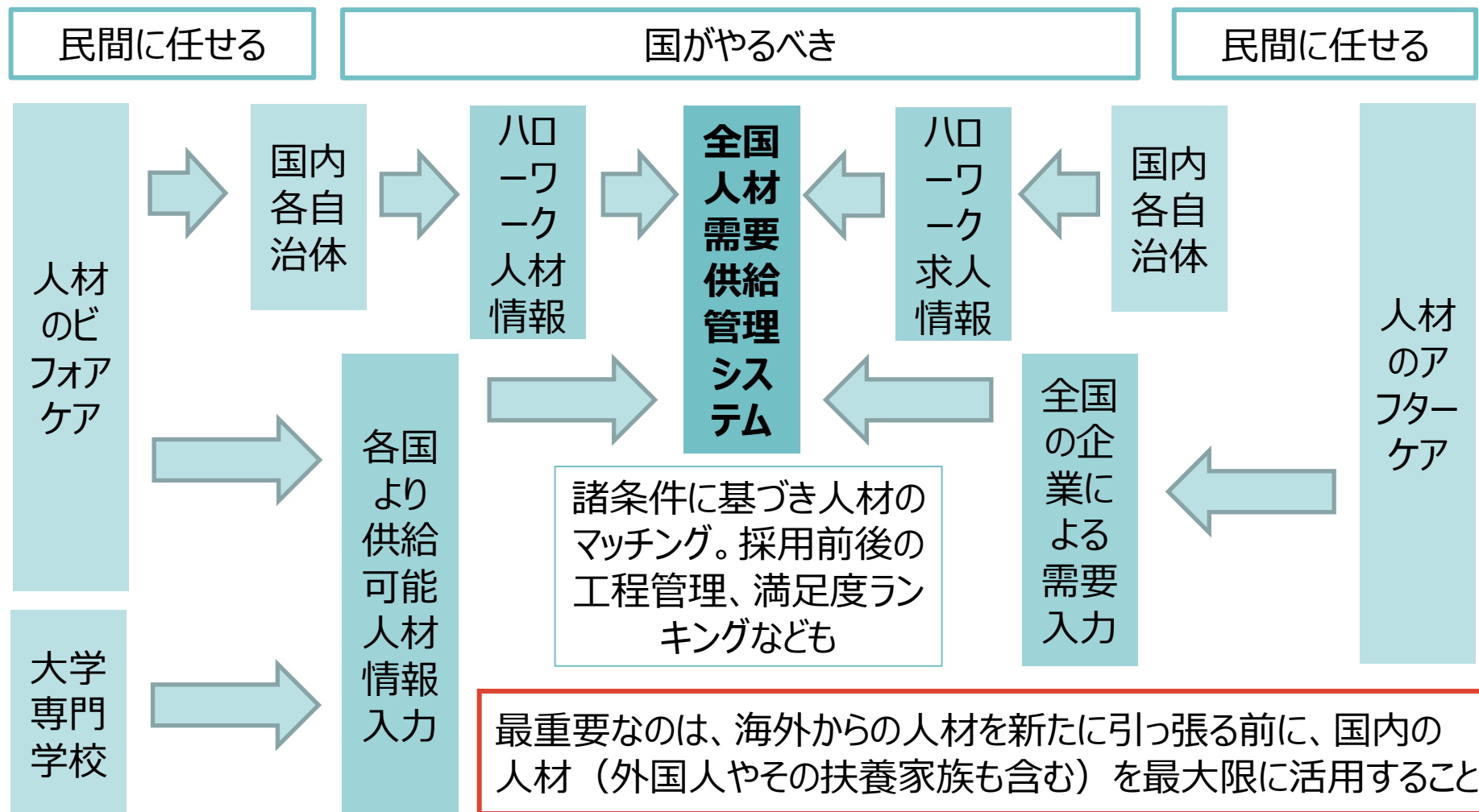


**技能ビザが乱用され続け、
不必要な印度料理店がゴ
キブリの巣のように増加。
今、技能実習生や難民制
度の乱用が始まっている。
騙されて、夢を見せられて、
招へいされる人は少なくない**

👉 各国の人材の強弱を分析し、仕事の内容に見合った人材を受け入れる努力をすべき。

では、どうするか？

世の中では物流管理のシステムが優秀になっていて、コンビニなんかでは、各商品の売上同行を店舗毎に把握し、自動的に補充を促す。品切れしないよう配送などが自動的に行われる。全国的な人材管理システムを作り、需要と供給を管理すべき。



では、多文化共生をどう進めるか？ 課題の把握と各関係者の役割

どこに問題があるのか？（日本人編）

日常生活

- 日本のルールやマナーを守らない。
- ゴミを分別しない。粗大ゴミを放棄。
- ベランダでの長電話。
- 共通空間での大声の会話。
- 家の中や廊下で走り回る子ども。
- 集会所利用後の掃除不十分。
- 夜遅くまで住宅地内で群れている。
- 子どもも夜遅くまで外で遊んでいる。
- いつも固まっている。うるさい。
- 料理のにおいが臭くて気になる。
- 町内会に参加しない など。

職場

- 考え方が違いがある。働き方が違う。
- 時間や約束を守らない。
- 資料や物の作り方が違う。
- ステップ・バイ・ステップで考えない。
- 言語・コミュニケーションの問題。
- 仕来り・暗黙の了解・建前の理解がない。
- エレベーターの中でうるさいと臭い。
- 食文化が違って飲み会が楽しめない。
- 服装のセンスがない。
- 仕事が奪われている。
- 残業が少ないのに給料が高い。

在留外国人が多い地域の日本人に対し、外国人のことやコミュニケーションに関する教育を行う

どこに問題があるのか？（外国人編）

日常生活

- 日本のルールやマナーは独特で来日前に知る機会がない。
- 住居は契約しにくい。
- 人はオープンではない。裏表、お世辞の世界は難しい。
- 食品などは日本語の表記ばかりで、馴染むのに時間がかかる。
- 役所・医療・入管・災害において多言語対応・情報がない。
- 子どもの教育は不安。大人の日本語・継続教育は難あり。
- 日常生活内、電車内で隣に座らないなど人種差別。
- ビザの手続きが複雑。警察の職務質問に違和感を感じる。

職場

- 終身雇用がほぼなく、契約雇用が主でいつも不安。
- 扶養家族の雇用が困難。
- キャリアが見えない。肩書・昇格・昇給がない。
- リーダーポジションが与えられない。出張などでも優先されない。
- 意見を聞いてもらえない。決断とスピードが遅い。
- 報酬体型が日本人と違う。
- 保険・年金の問題がある。
- 情報がシェアされない、打ち合わせに呼ばれないなど
- 研修・教育はあまりない。育成されていない。

コミュニティ

- 学校で差別の対象になる。学校の通知など読めない。
- 隣人との会話がないう。顔を合わせる機会も少ない。
- お互いご飯を作って交換するなど、そんな関係にならない。
- PTA、町内会などでは輪に入れない。
- 医療・法律相談が出来ない。
- 町内会のチラシなどは日本語のみで、内容は理解できない。
- 2代目以降は自国の文化に触れなくなる。
- 在日コリアン、中国人2～3世、残留孤児の受け入れ問題。

在留外国人が生活の知恵と日本語のスキルが取得出来るよう、我々が支えて行かなければならない

こんなことをされる

街とか住宅地では右記のような訳が分からない看板が設置されてしまう。

- 変な英語で書かれた注意看板。
(数年前までは全て日本語だった)
- 外国人のみを対象とした注意看板。
- 住民からの外国人に対する苦情。
- 住民からの外国人に対する非難。
- エスカレートすると外国人の家の前に
ゴミを捨てたりなどの嫌がらせまで発展



なぜ外国人がルールを守らない？

- なぜかという、みんな日本の習慣やエチケットを熟知しないからだ。それに、誰も彼らにその習慣やエチケットを教えているのではなく、みんなが周りを見て真似をしたり、真似できなかったり、失敗をして修正をしたりしています。外国での情報がまだまだ少ない。
- 例えば、アジア諸国ではゴミ分別の習慣がない。発展途上国から来た人はエスカレーターの乗り方が分からないし、中国人にしては右側に並ぶのは普通。それは関西人も同じですよね。インドその周辺の国々では列に並んで乗車する習慣がない。
- みんな違う環境で育ち、違う習慣や価値観を持っているのだ。印度人同士でも違う。

日常生活における基本的なニーズとその対応状況

印度人 コミュニティ

衣

日本人との体型の違いはあって、多少はユニクロなどで満たされるが、印度服やカラフルなYシャツなどを好むため基本的に印度から調達。コミュニティの中にはそのような商売をする人も。印度人女性でビューティー・パーラーをやっている人も。

食

難あり。ベジタリアンは不満。印度人が密集する地域には印度雑貨屋が。直近、印度雑貨屋は印度からの野菜・果物を輸入。でも、印度各地域の米や豆などの輸入が出来ていないため、パキスタン米で我慢することも。スパイスの品質も低い。

住

集合住宅のある町は外国人の受け入れが進んでいるが、それ以外はまだ難あり。外国人に住宅を紹介する仲介業者がいて、住宅探しは当面問題なし。近隣の方々との付き合いについては、もっと入り込んだ交流を期待している。IT人口は一定期間の派遣が多いため、永住やマイホームの購入まで中々進まない。

保育 教育

娯楽

社会 安全

安全は十分以上に満たされている。印度各地域に基づく複数のコミュニティが出来ており、コミュニティ内の情報交換・助け合いはある程度あるが、日本人社会とのパイプがない。そして、入管・警察による温かい視線が望まれる。

言語問題があり、日本のテレビは普通に楽しめない。NHK料金問題。近年印度のケーブルテレビが観れるように。日本に入ってくる映画も多くなった。年中印度関連のイベントも開催。運転免許を切り替え、マイカー、ライダーを楽しむ人口も増加中。

子供の保育・教育については類似施設、印度学校、インターに依存。ITは高所得のため認可保育園・幼稚園に入園不可。公立学校に通うケースは少ない。学校の通達など読めない。通っても差別がある。親の輪に入れない。音楽・スポーツ等の教育を与える親は少ない。大人の日本語その他継続教育は少ない。

外国人が直面する課題、日本から離れる理由

来日前

- 日本は未知の世界
- ビザ手続きの困難
- ビザにおける詐欺
(悪徳エージェントの存在)
- 難民の不必要な受け入れ
- 住宅検索の困難

職場の風習：仕事のスタイル、WLB等が合わず、オセアニア・欧米などへ流出。
キャリア形成：日本の企業では昇格も昇格は遅く、いくら頑張っても部次長になることはほぼない、長期的なキャリア形成を考えた上での流出。
言語の問題：近年、印度では日本語教育が盛ん。都内でも日本語教育を与える所が倍増。オンライン教育の安い手段も。但し、日本語教育のペースが間に合っておらず、日本語を勉強せずに来日する人も多い。コミュニケーションができないと現地の活動やサークルなどに参加できない。扶養家族の雇用が進まないことの原因にも。

在留中

- 言語、食べ物、マナー
- 差別・偏見
- 賃貸、住宅ローン借入の困難
- 期間採用・派遣の問題
- 職場の風習、働き方の違い
- キャリア形成なく、使い捨て人材
- 昇給・昇格なし、賃金未払い
- ビザ更新、銀行手続き困難
- 医療・保育・教育・継続教育
- 結婚・扶養家族の就職
- 近所付き合い、社会参加
- 両親、家族の招聘
- 災害・避難情報の入手困難
- 警察・裁判での不当扱い

離日後

- 年金の返金
- 保険料
- 粗大ゴミの処分

保育・教育：給料は高額で妻は主婦であるため認可保育園の利用は原則無理。子育ての負担が大。印度学校では高等教育になると教育の程度が問われる。日本語教育も乏しい。認可も受けておらず、高卒以降の進路に制約が。ほとんどの子どもが印度へ帰国するか他国へ流出。日本にとって大損。普通のインターは高すぎる。一番安い学校でも、18万円/月以上。都立インターはあるが、外国人枠はたったの数席。

両親の招聘：印度では両親と同居し、両親の世話をすることは一般的。孫の面倒をみて、道理・道徳を教える。
婚姻：印度ではお見合い結婚が主流。基本的に母国にいる親が母国で結婚相手を見つけ、その相手が必ずしも日本への渡航を承諾する訳でもない。

多文化共生を考える

個人の努力

- 日本語を学ぶ
- 家族に日本語を教える
- 生活習慣を覚える
- ビジネス習慣を覚える
- 食習慣を調整する
- 友達を作る
- 現地の祭り等に参加する

自助

公助

共助

👉 たくさんの外国人はエスカレーターの乗り方を知らなければ、電車内のマナーも知らない。よって、日本政府がYouTubeチャンネルを作り、研修動画を発信すべきだと思います。

外国人も日本の一員であり、共に日本の経済を支えていくための投資。

国、地方自治体の努力

- 全ての外国人の要件の把握・対応⇒外国人代表者会
- 来日した時点から言語・文化研修の実施
- 生活、災害他における多言語情報発信
- 子どもの教育、大人の生涯学習、医療環境
- 扶養家族のメインストリームへの巻き込み
- ビザ手続きの簡素化・オンライン化、年金の回帰
- 住宅賃貸、永住権申請の際の保証人条件の廃止
- 口座開設、クレカード、運転免許等サービス向上
- 役所、警察、入管、労働基準監督等での優しい対応
- 多言語による情報発信。道路標識・食料品の表示
- 住宅供給の計画、集合住宅の建設、外国街を作らない

町会、起業、NPO等の努力

- 言語・文化研修
- 分かり易い看板など
- 地元イベントへの参加を促す
- 防災訓練への参加を促す
- 文化その他の交流会などの開催
- お葬式、病人、紛争、警察関連、お見合いその他のサポート

多文化共生をどう進める？ 具体的な事例

COPYRIGHT NOTICE

Copyright © 2021 Yogendra Puranik "Yogi"

Mail: jnkjapan2020@gmail.com

All rights reserved. These materials are confidential and proprietary and no part of these materials should be reproduced, published in any form by any means, electronic or mechanical including photocopy or any information storage or retrieval system nor should the materials be disclosed to third parties without the express written authorization of the owner.

ルールを教える、分かり易く掲示するなど

粗大ゴミを出す方へ

粗大ゴミのシールを購入・貼付し、シールには必ず号棟と名前を明記して下さい。書いてない物は収集してくれません。



Whomsoever disposing large sized garbage, please buy/stick disposal stickers. Write your building number and name on the stickers. Else, the garbage will not be collected.

管理サービス事務所

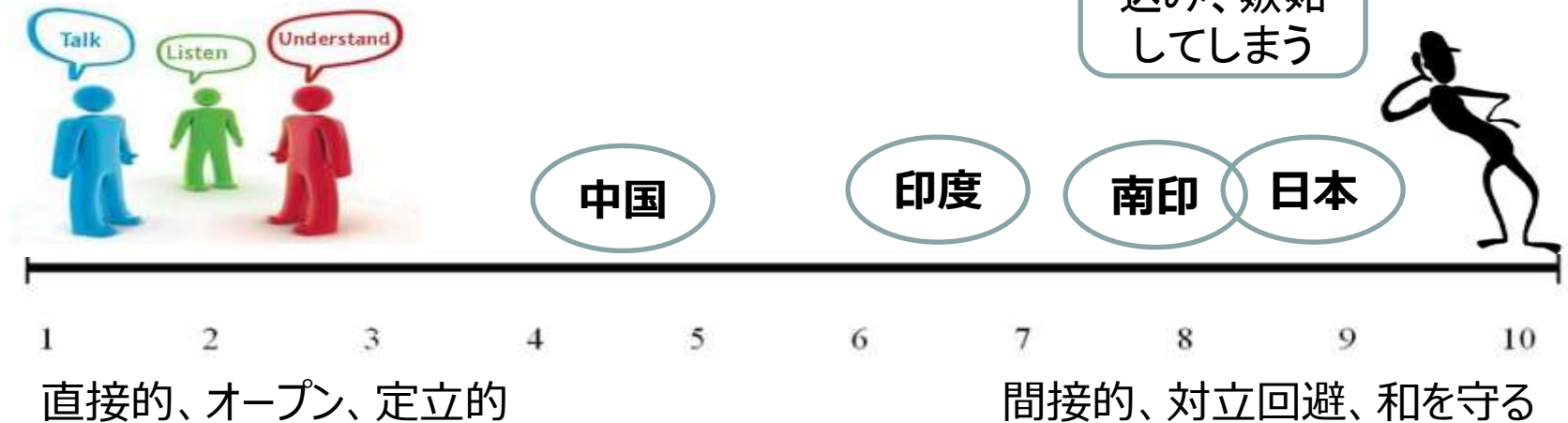
UR Administration Service Office



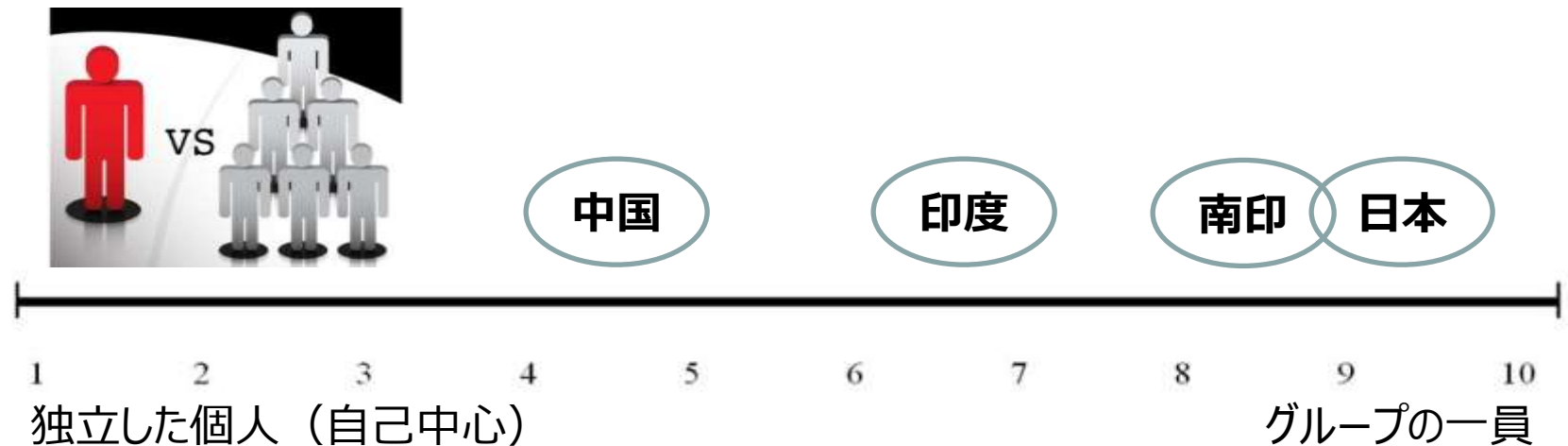
UR都市機構

異文化・多習慣・違いの理解

■ コミュニケーション・紛争解決



■ 自己意識



住居⇒江戸川区・江東区が印度人に人気の理由は

- 1990年代の始まりには目黒区・港区の印度人人口が多かった。
- 1990年代の後半に、2000年問題の解決のために印度人が大量に来日。当時は保証人なしで住宅の借り入れが困難。また、印度人・中国人が住むと、退去後にカレーなどの異臭が部屋に残り、次の借り手が見つからないということも。
- 中野では飯島兄弟が、千葉に入った行徳周辺ではアントン氏が数百人の規模で印度人を受け入れ、家賃も安価。光が丘、八潮（品川）の団地にも多く居住。
- 2001年になるとUR都市機構が外国人を受け入れ易くするため仲介エージェントによる紹介を許可した。このエージェントらが印度人を勧誘した。



UR都市機構が仲介エージェントを通しての受け入れを始めたのは江戸川区西葛西の清新町団地。バブル以降に当団地では空き家が多く、また家賃設定も1LDKで10万円以上だったため、積極的に外国人を受け入れよう。

仲介エージェントは印度のIT企業の人事部に営業をしたりなど、ITで働く多くの印度人エンジニアを当団地に誘い込んだ。そこから口コミで多くは次々と都心に近いこの団地に集まってきた。現在、江戸川区には4000人に近い印度人が居住。

但し、こちらの地域はまだ印度化されていない。印度料理店が数店舗や印度雑貨店が数店舗ほどである。リトル・インディア化は好まない。

外国人への住宅供給、街の在り方

民間のマンションを借りるハードルが高く、都市機構・都営の集合住宅に住んでいる外国人は圧倒的に多い。近年、マンションや一軒家の購入、国籍取得する中国人は以前から圧倒的に多いが、近年は印度人も。でも、数は少ない。集合住宅を好む理由は次の通り。

- 多言語不動産検索があれば良いが、専用仲介業者に連絡するだけで、手続きをノーチャージでやってくれる。礼金、敷金、仲介手数料、保証人不要。
- 退居時の費用は少ない。入居期間が短くても損した気分にならない。
- 大勢で住んでいて、近所付き合いが出来て楽。子どもの遊び場、集会所も備わっている
- 集合住宅周辺では買い物が便利。雑貨店、外国料理店も並ぶ。多言語メニューも。
- 災害に強くて安全。グラウンド、遊具など子どもに優しい環境が揃っていて、緑もある。
- 人数が増えると、類似保育施設、学校、言語・イベントサークルなども出来てくる。
- ゴミ、粗大ゴミの処分が安易。リサイクルも便利。

でも、都心ではこのような住宅も限界を迎えています。または知らない間に外国人の巣になり、社会的差別の対象になる可能性も。埼玉県芝園団地はその一例。

日本は自然災害大国。近年、大型化している災害を考えると、日本では戦略的な街づくりを進めるべきだと思う。その際に、外国人、LGBTなどあらゆる観点から考えると良いのではないのでしょうか。



江戸川区西葛西の巨大団地

教育は最大のテーマ

親・保護者・国にとって子どもの教育は最大のテーマである。特に発展途上国から来られている外国人の場合は、教育以外頼れるところはない、という強い信念をもっている。現状は、お金を持つ外国人は子どもをインターナショナルスクールに通わせ、あまりお金を持たない親は公立小中学校に子どもを通わせ、そのぐらゐの余裕もない親は、子どもを呼び寄せないことを選ぶ。この実態を勘案し、日本人の子どものためにも教育を抜本的に改革すべき。

- 外国人は諸制限で子どもが公立保育園に入れないため、この問題を解決し、外国人の配偶者にも労働力になる機会を。
- 幼稚園から英語を教え、小中学校から英語以外の外国語を選択項目にし、子どもたちにコミュニケーションの機会を。
- 日本全国の公立小中学校の教育は日本語のみで行われているが、二言語化し、英語・数学・理系などは英語で学んでも良いと思う。印度の国立小中学校ではこのようなMTB-MLE方式教育が実行されていて、効果が高い。日本人の子どもも特し、外国人の子どもが公立学校に入りやすくなる。それが、出来ないのなら、各地方自治体に公立国際小中高学校を用意すべきと考える。月に4～5万円程度で有料でも良い。
- 公立の学校において、様々な国からの先生を受け入れ、外国人との付き合いに慣れてもらう。海外からの先生により教務室にも新しいかぜが吹く気がする。

MOTHER TONGUE BASED-
MULTILINGUAL EDUCATION
(MTB-MLE)



全国規模の多言語災害情報サイトの構築

日本は自然災害大国であることは否定出来ない。多重災害の可能性も。全国の正しい情報が把握出来る媒体はなく、多言語対応も追いついていない。災害発生時には多言語アラート発信や、ウェブサイト・SNSなどによる情報発信はほとんどなされていない。災害対策本部、避難所の開設準備員などのチームに外国人や外国語が出来る方がいない。

- 国が全国規模の一つの多言語サイトを構築し、災害の最新状況・予測、緊急時の連絡先、避難所・病院、事前準備、注意点、NPO・NGOなどの情報を網羅し、アラート等を速やかに多言語で発信すべき。文字ではなく、可能な限りイメージや表を使い、読みやすくする。災害対策チームに外国人または多言語可能なメンバーを含めるなど対応が必要。「やさしい日本語」で対応を進める自治体や団体もあるが、**災害が発生した際は、急を要するため、やさしい日本語だけでは対応し難い。**
- 避難勧告などについては、あらゆる場面（シナリオ）を想定し、予め複数のメッセージを多言語で用意し、必要に応じて、速やかにメッセージを発信する。
- 右は韓国政府が構築した災害対策ウェブサイト。台風、地震など自然災害の情報、緊急時アラートなどをリアルタイムで多言語で発信しています。2015年11月の大臣の際に韓国語のみで発信した緊急時アラートについて深く反省し、このシステムを構築したという。



	未就学児	就学児	配偶者	年配者	低学者	旅行者	。。。
生活・振興 ○○○				△	△	△	
教育・環境 ○○○	当事者欠席の共生対応						
職業・経営 ○○○	×	×					
医療・保険 ○○○			△	×		×	
災害・避難 ○○○	情報・意見聴取のために 外国人代表者会の設置				△		
		×	×	×	×	×	

全ての国の方々を一つに括ってはだめです。国が変われば育った環境、経験してきたこと、物事に対する理解・期待などが違います。また、外国人には長期滞在の方、短期滞在の方、旅行者、来日したばかりの方もいます。そして、上記にも記載したように未就学児、就学児、社会人、仕事をしない配偶者、短期訪問中の親（年配者）、日本語や様々なことが理解できない低学歴者、障害者などがいます。このような方々（対象者）をX軸に、彼らの生活要素をY軸にし、そのマトリックスから課題を特定し、解決策を検討すべきである。

共存か？共生か？

- もはや、我々には「日本に外国人は要らない」という選択肢が残っていない。仮に選択肢があっても、世界貿易がある意味必要で、世間世の中は常に狭くなっていく中、「こんなところに」まで日本人がいたりして、国境というものが薄くなっていきます。
- だとすると、我々に残る選択肢とは外国人との「共存」または「共生」です。**共存**というのは、単に喧嘩をしないで、一緒に存在すること。相手を支配したり、追い出したりしないで、一緒にいても大丈夫ということです。**共生**というのは、お互いを助け合う、お互いを補い合うような、一緒にいないと困るというような存在です。
- どちらを選ぶか、あなた次第です。



- 町内会などでよくみると日本人の間でも今は多世代間の共生は足りない。町会活動、住宅管理組合に参加してくれる若者が少なくて、逆に先輩方が居座ったままでは若者が入り易い訳でもない。地域の祭りや運動会が縮小し、設営からなんでもかんでも業者に依頼し、生き残っている自治会が見られます。
- 別の観点では熟年者、障害者、女性、子育て中の女性などへの配慮が足りない所が多々ある。私は日常的にそのような事例に遭遇します。国籍だけではなく、性別、性的指向、世代、健康状態などの枠を超えた共生社会を訴えていきたい。みんなが自分らしく楽しく生きられる社会を目指そう。



Thank You

よぎ（プラニク ヨゲンドラ）
Yogi (Yogendra Puranik)

Mob: +81-90-9971-6181

Mail: jnkjapan2020@gmail.com

Wiki: <https://w.wiki/LuP> (Jpn)

HP: <https://jnk-japan.webs.com/>

Reference

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html

私は、ボディー・マインド・ソールの三つのバランスを大切にしています。健康な体を作り（ヘルシーご飯・体操等）、知識を集め（学習・読書・ディベート等）、精神をフリーにする（哲学の勉強・ボラティア活動等）ことを目指しています。

